

《担当者名》鎌田樹寛 t.kamada@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

本講義は、DP3に該当する科目である。具体的には、老年期の対象者の方について、生物学側面・心理学的側面・社会的側面の理解を深めながら、作業療法の実践で用いられる基本的知識を修得することを目的にする。内訳は、時代背景や社会状況、特有な疾患、心理と病理、生活上のリスク、治療プロセスと評価法、主な治療アプローチや実践法を、実際に実施されたことに基づいて学ぶことが挙げられる。

【学修目標】

一般目標

前半（1～7回）では、高齢対象者への作業療法を行うために得られなくてはならない基本的知識（生物学側面・心理学的側面・社会的側面）や重要概念を修得する。後半（8～15回）では、老化や障害に伴い消失されやすい「その人らしさ」を引き出すための主要な評価方法や実践方法について学び、老年期（障害）領域の基本的な作業療法の取り組みについて理解する。

行動目標

1. 高齢者のイメージや対象者の時代背景および高齢社会について説明できる。
2. 老年期の特徴について説明できる。
3. 認知症を伴う対象者の見方として、疾病性と事例性の相違や対応方法が説明できる。
4. 認知症対象者に実施される非薬物アプローチの意義説明や種類を列挙できる。
5. 高齢者の生活上のリスクについて説明できる。
6. 作業療法実施プロセスが説明できる。
7. 「その人らしさ」を引き出す評価法について、その意義の説明や種類を列挙できる。
8. 場に応じたアプローチについて説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	高齢者のイメージや対象者の時代背景および少子・高齢社会について学ぶ。	鎌田樹寛
2	対象者の理解	老年期の特徴（高齢者の生活課題、運動および関連機能）について学ぶ。	鎌田樹寛
3	対象者の理解	老年期の特徴（循環・呼吸器機能の変化及び低栄養）について学ぶ。	鎌田樹寛
4	対象者の理解	老年期の特徴（感覚・知覚・認知機能の変化）について学ぶ。	鎌田樹寛
5	対象者の理解	1. 高齢者の心理と病理について学ぶ（1）。 ～認知症対象者の疾病性と事例性の相違とは～	鎌田樹寛
6	対象者の理解	1. 高齢者の心理と病理について学ぶ（2）。 ～認知症対象者への基本的対応とは～ 2. 認知症対象者に実施される非薬物アプローチの意義や種類について学ぶ。	鎌田樹寛
7	対象者の理解	高齢者のリスクについて学ぶ。 ～生活上で起こりやすい問題とは～ 1) 食事関連 2) 排泄関連 3) 入浴関連 4) 移動関連 5) 自宅療養関連	鎌田樹寛
8	作業療法の実践	1. 作業療法実施プロセスについて学ぶ。 ・クライアント中心と作業中心 ・モデルと評価の関係 ・治療的戦略（作業療法士の行為） 2. ナラティブアプローチについて学ぶ。	鎌田樹寛
9	作業療法の実践	作業療法評価法について学ぶ（1）。 ～その人らしさを引き出す評価法を用いる	鎌田樹寛

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		ための重要な基盤概念とは～ 1) その人の価値観を知ること 2) その人の生活習慣やバランスを知ること 3) その人の興味・関心を知ること	
10	作業療法の実践	作業療法評価法について学ぶ(2)。 4) 「できる」と思う気持ちを知ること 討論を通して深める	鎌田樹寛
11	作業療法の実践	作業療法評価法について学ぶ(3)。 5) その人の役割・生きがいを知ること 討論を通して深める	鎌田樹寛
12	作業療法の実践	作業療法評価法について学ぶ(4)。 6) その人の取り巻く環境を知ること 7) 生きてきたストーリーを知ること 討論を通して深める	鎌田樹寛
13	作業療法の実践	回復期(治療的)アプローチについて学ぶ。 ・高齢者に対する感覚統合療法	鎌田樹寛
14	作業療法の実践	場の特性(生活期:介護老人保健施設)について学ぶ。 ・「生活リハビリテーション」の実際	鎌田樹寛
15	作業療法の実践 とまとめ	1. 健康増進・予防的観点からのアプローチについて学ぶ。 ～滝川市65歳大学の実際とは～ 2. 振り返りとまとめ	鎌田樹寛

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

- 小テスト20% : 第1～7回講義の範囲を対象とする
レポート40% : 第9～12回講義の範囲を対象とする
期末試験40% : すべての範囲を対象とする

【教科書】

村田和香 他 著 「作業療法学全書 老年期(改訂第3版)」 協同医書出版 2009年
適宜資料を配布する。

【参考書】

山田孝 他 著 「高齢期障害領域の作業療法(第2版)」 中央法規出版 2016年
松房利憲 他 著 「高齢期作業療法学(第3版)」 医学書院 2015年
小川敬之 他 著 「認知症の作業療法第2版」 医歯薬出版 2016年
籾脇健司 他 著 「高齢者のその人らしさを捉える作業療法」 文光堂 2015年
白井壮一 他 訳 「認知症へのアプローチ」 エルゼビア・ジャパン 2007年
室伏君士 著 「認知症高齢者へのメンタルケア」 ワールドプランニング 2009年

【備考】

- ・配布資料等は、manaba上にもアップする
- ・質疑応答・感想に関しては、manabaを主として用いる
- ・グループワークやフィードバックには、ZOOMを用いる

【学修の準備】

1. 講義テーマについて、該当される教科書範囲を読んで予習すること(80分)。
2. 講義テーマの復習をすること(80分)。
3. 小テストは必ず復習すること(80分)。
4. レポートはコメントをつけて返却するので、今後の参考にすること。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

(DP3) 作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれら

の人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

作業療法士

【実務経験を活かした教育内容】

実務期間の経験を基に、加齢や老化そして心身の機能障害による「その人らしさの縮小」をいかに留める作業療法の実践を遂行するかについて、具体的な課題提示をしながら、グループ討論やレポート提出・フィードバックを重ねて、理解を促す。